

1. 都市交通戦略の必要性

「にぎわい」と「やすらぎ」のある、だれもが安心して生活できるまちをつくるため、交通施策とまちづくりが連携した戦略的な施策を展開します。

●クルマに過度に依存した移動手段

・福井市に関連する交通の移動手段は、クルマ中心の傾向が強まり、自動車の分担率は74.9%、公共交通は、3.0%

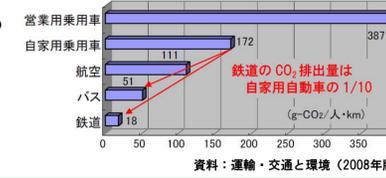


・移動時間が短い移動も、クルマ利用中心が進行

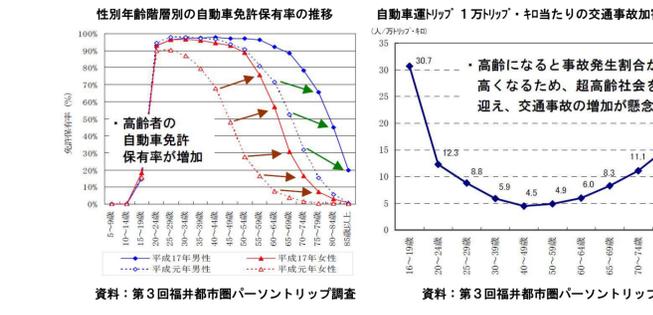


●環境負荷の少ない交通手段への転換

・日本の二酸化炭素(CO2)の排出量の2割を占める運輸部門のうち9割が自動車の起因
・自動車に比べて二酸化炭素の排出量が少なく、環境負荷の小さい公共交通への転換が必要



●増加する高齢ドライバー



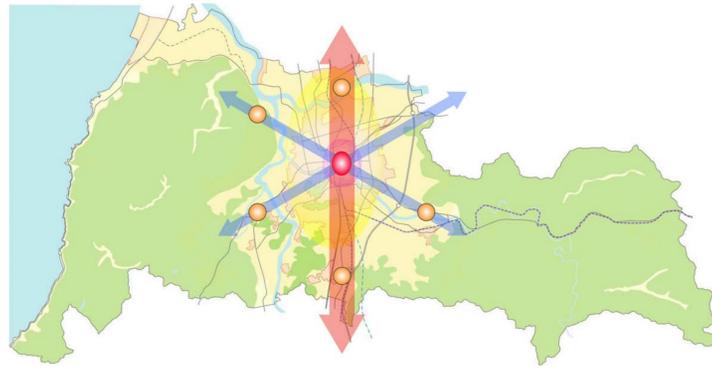
4. 都市交通戦略の実現に向けて

本戦略の実現に向けては、公共交通を利用する住民、サービスを提供する交通事業者、これらを調整し適切な施策を実施する行政が、それぞれの役割を果たしていくことが重要です。

福井市都市交通戦略

人にやさしい「全域交通ネットワーク」とにぎわいとやすらぎの「まちづくり」

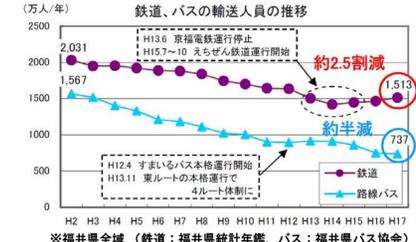
概要版



平成21年2月
福井市

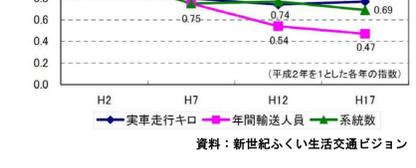
●バス利用者は減少、鉄道は近年増加に転換

・鉄道輸送は、平成15年にえちぜん鉄道が運行を開始し、輸送人員は増加に転換
・バス輸送は、バス路線の系統数、走行キロ数の減少以上に輸送人員が減少



●バス、鉄道の運行本数の増加などが求められています

・福井市市民意識調査では、「運行本数が少ない」などの市民意向が多い
・これらの市民や利用者のニーズに対応した、都市交通戦略が必要



■戦略が目指すもの
既存ストックを活用しながら、公共交通のサービス向上と利用促進に取組み、中心部ににぎわいと郊外部の安らぎを結び、誰もが安心して快適に移動できる全域交通ネットワークの構築を図ります。地域にふさわしい交通サービスの確保と利便性向上を進め、過度にクルマに依存した交通環境からの脱却と、環境負荷の小さい公共交通への転換を目指します。施策展開にあわせて目標の達成状況を確認し、実現に向けて継続的に施策を実施します。

1. 市民の公共交通の満足度を高めよう

誰もが安全で快適に移動できる交通環境を構築するため、中心市街地、まちなか地区、周辺市街地、農山漁村地域それぞれに交通の目標を掲げ、公共交通サービス水準の向上によって、市民の公共交通への満足度を高めよう。

2. 市民の生活の足を確保しよう

「全域交通ネットワークづくり」を目標に掲げており、シビルミニマムとしての公共交通サービスを市域全域に提供するため、地域拠点、乗継拠点におけるフィーダーバス(地域バス)など、地域の特性にあった生活交通施策を展開し、市民の生活の足を確保します。

3. 環境にやさしいまちづくりに貢献しよう

地球温暖化対策として、低炭素社会への転換が求められています。環境にやさしい公共交通を維持・拡充するとともに、市民一人ひとりに「かしこいクルマの使い方」等の情報提供を行い、交通や環境への関心を高め、クルマから公共交通への転換を促すことで、二酸化炭素排出量(CO2)の削減を図り、環境にやさしいまちづくりに貢献します。

福井市都市交通戦略/平成21年2月
発行: 福井市都市戦略部交通政策室
〒910-8511 福井市大手3丁目10番1号/TEL(0776)20-5138/E-mail koutu-s@city.fukui.lg.jp

2. 都市交通戦略の施策展開

都市交通政策の基本方針に基づく、都市交通の目標像、公共交通の目標像、地域別の目標とサービス水準を実現するため、6つの施策パッケージからなる交通施策と地域別の連携施策を戦略的に展開します。

人にやさしい「全域交通ネットワーク」とにぎわいとやすらぎの「まちづくり」

都市交通政策の基本方針

- 福井市都市圏における広域総合交通体系の構築
- 公共交通を中心とする交通施策への転換
- 地域バランスのとれた交通環境の構築

都市交通の目標像

地域を軸と拠点でつなぐ「全域交通ネットワーク」づくり

公共交通の目標像

既存ストックを活用した福井型公共交通ネットワーク

- 6方向の公共交通幹線軸の強化
- 軸と地域を結び拠点の形成
- 地域特性にふさわしい交通サービスの確保

施策パッケージ (交通施策)

1. 南北幹線軸としてのLRTの整備

- 既存の鉄軌道ストックを活用したLRTの高頻度運行によって、高水準の公共交通サービスを提供する公共交通幹線軸の主軸を形成
- 鉄軌道の整備
- 車両の更新
- 相互乗入の具体化 (運行形態、ダイヤ、料金等)

2. 東西幹線軸となる幹線バス路線の整備

- 東西方向に広がる市域への公共交通幹線軸として中心市街地と各地域拠点を連絡するバスサービスネットワークを形成
- 幹線バス路線の活性化
- フィーダーバス(地域バス)の検討・運行

3. 交通結節の強化

- 公共交通幹線軸と市域各地域を結節し、地域にふさわしいフィーダーサービス等と日常生活サービスの提供によって利用者の利便性を高める地域拠点、乗継拠点を形成
- 福井駅西口駅前広場へのバスターミナル機能の導入
- 地域拠点、乗継拠点の機能強化

4. 電車・バスのICT化

- 公共交通の利便性を高めるため、ICカードの導入や総合情報案内サービスを提供
- ICカード導入の検討
- バスロケーションシステム拡充
- 電車総合情報システム導入

5. モビリティ・マネジメントの推進

- 環境負荷の抑制など、過度なクルマ利用から、かしこいクルマの利用への転換を啓発し、市民自ら移動手段について考える「場」を提供
- 各種整備事業にあわせてモビリティ・マネジメントの実施

6. 駐車マネジメントの推進

- 中心市街地ににぎわい、活力の再生に向けて、誰もが使いやすい交通環境をつくるため、クルマ利用の効率化に向けた既存駐車場の活用について検討
- 駐車場への案内強化
- 携帯電話を利用した駐車場情報提供システムの活用・拡充

●総力戦による戦略的な施策展開

公共交通の利便性を高める交通施策と日常生活サービスの利便性を高める地域別の連携施策によって、総力戦による戦略的な施策を展開します。

施策パッケージ (交通施策)	連携施策
<ol style="list-style-type: none"> 南北幹線軸としてのLRTの整備 東西幹線軸となる幹線バス路線の整備 交通結節の強化 電車・バスのICT化 モビリティ・マネジメントの推進 	<p>商業・業務 住宅 福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間投資・空きオフィス・店舗の活用 住宅建設・都市居住推進 地域拠点における防災・交通利便性の向上 (バス・タクシー等) の設置 地域拠点における高齢者の交通利便性の向上 (バス・タクシー等) の設置

3. 事業プログラム

施策パッケージ	事業概要	予定時期 (概ね10年間)	
		前期	後期
1. 南北幹線軸としてのLRTの整備	軌道区間の整備 (路面軌道改良および新設) 鉄道区間の整備 (駅改良等) 車両の更新		
2. 東西幹線軸となる幹線バスの整備	相互乗入の具体化 (運行形態、ダイヤ、料金等) 幹線バス路線の活性化 地域バスの検討 地域バスの運行		
3. 交通結節の強化	西口広場・東口広場へのバスターミナル機能の導入 バスロケーションシステム拡充 パークアンドライド駐車場整備 サイクルアンドライド駐車場整備		
4. 電車・バスのICT化	ICカード導入の検討 バスロケーションシステム拡充 電車総合情報システム導入		
5. モビリティ・マネジメントの推進	各種整備事業にあわせてモビリティ・マネジメントの実施		
6. 駐車マネジメントの推進	駐車場への案内強化 携帯電話を利用した駐車場情報提供システムの活用・拡充		